

**「環境にやさしい稲作」にチェンジ!**  
 重点推進事項【①減肥・減農薬 ②品質向上 ③コスト低減】

新潟西部地域農業振興協議会  
 JA越後中央、西蒲区  
 巻農業普及指導センター

## 飽水管理・適期収穫・適正な乾燥調製 高品質食味栽培の締めくくいを!!

### 1 生育状況

梅雨明け後の高温傾向により、出穂はこしいぶきで平年差1日早め、コシヒカリで平年並みとなっています。

また、葉色は7月中旬から急速に褪色し、期待比「淡い～やや淡い」となっています。

今後も高温傾向が続くと予想されることから、水管理の徹底による稲体の活力維持と、適期収穫が重要となってきます。

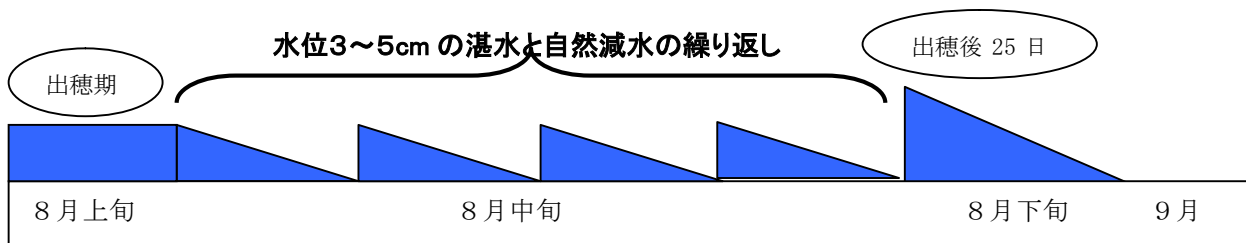
### 2 今後の管理のポイント

#### (1) 水管理

早期落水は下葉の枯れ上がりや倒伏を助長し、未熟粒の発生を増加させます。

出穂後25日間は飽水管理を徹底し、茎葉及び根の活力を維持して品質低下を防止しましょう。

コシヒカリや直は栽培では、8月末に深水(5~8cm)湛水後、自然落水とします。特に直は栽培では、完全落水(水尻、暗渠の開放)は、9月5日以降としましょう。

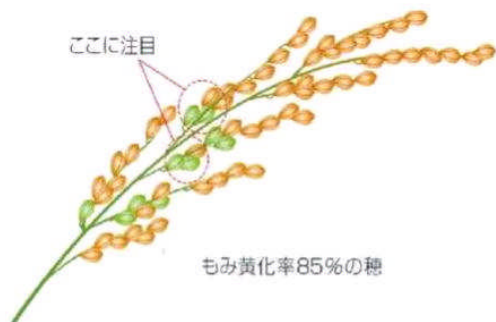


#### (2) 適期収穫 ~高温下では登熟が促進されます。刈り遅れに注意!~

今年は、出穂が早生で平年差-1日、中生で平年並みとなっており、また登熟期間が高温多日照で推移しています。

このような条件下では、収穫の遅れが着色米・胴割米の増加につながり、品質が低下します。

稲の黄化状況を確認し、積算気温を目安に刈り遅れのないよう計画的な作業を行いましょう。



[収穫開始のめやす~初黄化割合 85~90%]

上位3~4本目の一次枝梗に着生する2次枝梗が黄化した時期=初黄化率 85~90%

第 図 刈取適期判断を行う際の初黄化の判断位置

[主要品種の収穫適期のめやす] (5月連休頃移植時期での品種別表)

	品種	出穂期	積算温度 (°C)	収穫適期
うるち	ゆきん子舞	7/24	925	8/26
	こしいぶき	7/26		8/29
	ゆきの精	7/28		8/31
	コシヒカリ	8/4	950	9/9
	同 5/10 植	8/7		9/13
	同 直は	8/11		9/19
もち	わたぼうし	7/22	925	8/24
	こがねもち	7/31	950	9/4
酒	五百万石	7/22	925	8/24

注1) 積算温度は、8月16日までは本年値、以降は平年値を使用した。今後の気象条件により前後するので注意する。(アメダスデータ巻地点での計算)

注2) 出穂期はほ場により2~3日差があるので注意する。

注3) 収穫適期は、積算温度の基準値に-50°C(高温登熟条件)として計算した。

注4) 今後の高温状況により、上記表の適期より早くなる場合もあるので注意する。

**(3)適正な乾燥 ~必ず張り込み時の水分を確認してから作業開始!~**

○食味低下や胴割粒の発生防止のため、張り込み時の水分に応じた温度設定をしてください。

張り込み時水分	28%以上	22%以下	18%以下
乾燥温度	40°C以下	45°C以下	昼間は循環通風。夜間に加温乾燥

○仕上げ水分は15.0%に。(乾燥中の水分測定をこまめに行う。)

○張り込み量が少ない場合は、乾燥が早めに仕上がるので過乾燥に注意してください。

○青米などの混入が多い場合は、乾燥終了後の水分の戻りがあるため、仕上げ水分量に注意する。

○刈遅れた場合や成熟期頃にフェーン現象で乾燥した日が続いた場合は、胴割粒の発生が懸念されます。乾燥速度は、毎時乾減水分0.5%以下になるよう送風温度を低く設定してください。

**(4)ていねいな調製 ~ 高品質米生産の総仕上げ! 調製作業を徹底!~**

○ 舂すり : 舂の温度が常温近くまで下がってから行ってください。

○ 脱ぶ率 : 80~85%程度にロール間隔を調整しましょう。(舂、肌ずれ、碎米の混入防止)

○ ふるい目 : 1.85mm(五百万石は2.0mm)以上を使用し、流量調節を適正にしてくず米を完全に除去し、整粒歩合85%以上に仕上げます。

**(5)その他**

○ 収穫前に、クサネムなど雑草をほ場から除去し、雑草種子の製品への混入を防止しましょう。

○ 異品種等の混入を避けるため、コンバイン、乾燥機、調製機等は清掃を徹底しましょう。

○ 始業前の機械点検を必ず実施するなど、農作業事故を防止し、安全な農作業に努めましょう。

**生産履歴は、こまめに記帳し、農薬は最新の登録内容を確認の上、適正に使用しましょう。**